

提携先	(株)アルプス	記入日	2008/8/28
登録消費材名	無添加赤ワイン Rびん、ぶどうジュースコンコード、ぶどうジュースナイアガラ、ドクターグロウ有機ワイン(赤コンコード) 無添加メルロー(赤)、信州無添加ワイン(赤)、長野産コンコード(赤)、竜眼ワイン Rびん、長野産ナイアガラ(白)、長野産コンコード(ロゼ)、MDV松本平ブラッククイーン、塩尻ワイン(白)、氷熟仕込コンコード(赤)、氷熟仕込ナイアガラ(白)、MDV塩尻メルロー		

．これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

- 1．引き続き、ぶどう搾汁残渣の肥料化と契約農家への配布を続行
- 2．充填施設の一部クリーンブース化。
- 3．工場内避難通路をわかりやすく明示。
- 4．薬剤棚を新規購入、施錠設置、すべての薬剤のMSDSを用意。
- 5．蒸気配管の総点検(漏れ等無いか。)
- 6．表示確認表の作成
- 7．充填後の製品をカウントするセンサー設置。
- 8．工場内捕虫器の設置場所の変更
- 9．充填室の照度アップ
- 10．王冠、コルク栓供給センサーの設置
- 11．缶ラインケーサーのガイド共用化
- 12．クリーンブース内の防塵着衣の改善
- 13．ブラッククイーン品種の栽培促進(契約農家へ)
- 14．農業法人(株)アルプスファームの立ち上げ

．前年に努力したことへの評価(成果や課題)

- 1．搾汁残渣肥料により農薬使用量の減少が顕著になっている。ただし全農家への配布はいまのところ困難。今後の課題。
- 2．コルク打栓充填ラインのクリーンブース化により、異物混入防止に寄与。他充填ラインにも今後導入を検討。
- 3．緊急時の作業者の安全確保に寄与。
- 4．使用薬剤の管理がより厳密になった。
- 5．蒸気使用量の減少に寄与。 6．製造工程時における表示ミス発生防止に寄与
- 7．製造管理体制をより強化できた。
- 8．夜間、工場内の捕虫器の光が外部に漏れて虫を誘引している可能性があったため、捕虫器の場所を変更。効果があったと推察される。
- 9．照度アップにより作業しやすくなった。事故発生の危険も減少。
- 10．製造中の王冠、コルクの供給がスムーズになった。
- 11．ガイド共用により型換え時間短縮
- 12．防塵着衣改善により異物混入防止に寄与。
- 13．ブラッククイーン種使用のワインが非常に好評なため、契約農家へ依頼。来年以降徐々に栽培量が増えていく予定。
- 14．栽培農家の高齢化を懸念。自社農園確保のため農業法人設立。人材確保等課題は多いが、良質の長野県産ぶどうを永続的に確保するために努力していく。

．上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

- 1．有機肥料の効果を数値化しより明確にすることにより、栽培農家へ啓蒙につなげたい。
- 2．クリーンブースの他ラインへの導入検討。

- 3．工場内の安全衛生についてさらに検討。
- 4．使用薬剤の取り扱いについての社員教育は昨年度も実施しているが、より掘り下げた内容で行いたい。
- 5．CO₂削減について全社で取り組みたい。
- 6．新たなぶどう品種の試験栽培（カベルネソービニオン、ソーヴィニオンブラン等）
- 7．燃料費、資材費等が高騰している中、改善、合理化により製造コストをいかに抑制できるか、TQCサークル活動を通して社員一人一人が考えていきたい。